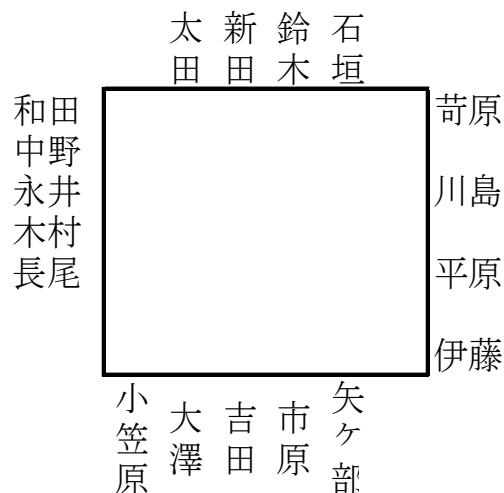


一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 平成24年度第2回社員総会 議事録

作成日：2012年12月14日

作成：事務局

【席 順】



日 時	2012年11月22日 (木) 18:30-20:40		
場 所	フクラシア東京ステーション 6階 会議室 C		
出席者	新田 國夫	東京	新田クリニック
	石垣 泰則	静岡	城西神経内科クリニック
	鈴木 央	東京	鈴木内科医院
	太田 秀樹	栃木	おやま城北クリニック
	和田 忠志	千葉	あおぞら診療所高知潮江
	苛原 実	千葉	いらはら診療所
	中野 一司	鹿児島	ナカノ在宅医療クリニック
	伊藤 光保	愛知	内科伊藤医院
	川島 孝一郎	宮城	仙台往診クリニック
	木村 幸博	岩手	もりおか往診クリニック
	長尾 和宏	兵庫	長尾クリニック (桜井隆 代理)
	永井 康徳	愛媛	たんぼぼクリニック
	平原 佐斗司	東京	梶原診療所
	市原 利晃	秋田	秋田往診クリニック
	大澤 誠	群馬	大井戸診療所
	小笠原 文雄	岐阜	小笠原内科
	矢ヶ部 伸也	佐賀	矢ヶ部医院 (満岡聡 代理)
	吉田 大介	徳島	徳島往診クリニック
陪 席	深田 修	国立長寿医療研究センター	
議題等	1 開会 2 報告事項 新田会長挨拶 新世話人紹介 世話人 近況・活動報告 事務局 教育・研修局 IT・コミュニケーション局 調査・研究局		

	<p style="text-align: center;">在宅医療助成勇美記念財団助成 ブロック在宅医療推進フォーラム その他</p> <p>3 議事</p> <p>アンケート調査への協力 放送大学 田城孝雄教授 機関誌作成について 本会の運営方針 方法 会員拡大 ご要望 その他 次回開催日程 (案) 平成 25 年 3 月 30 日 (土) 愛媛 *日本在宅医学会大会 初日</p>
	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>○新田会長挨拶 新田：先日、リーダー研修が終了した。世話人の皆様には、各地でリーダーとして指導に当たっていただきたい。</p> <p>○世話人近況報告 太田：今年度から世話人が増え、前回福岡で行われた世話人会では、九州の新世話人に多くご参加いただけた。</p> <p>鈴木：大田区では勇美記念財団の助成を受け、ITネットワークを設置することが決まり、品川区にも同様のネットを導入することを検討中。在宅医療入門研修と題し、柏プロジェクトの研修を大森医師会で行っていく。また、医師会に在宅医会を設置し、診診連携を構築していく予定。東京都は、高齢者数が極めて多い為早く何とかしなくては、焦りを感じている。</p> <p>苛原：松戸市では、12月1日2日に柏プロジェクトの1日半の研修が予定されている。広く公開され、見学者数も多く順調に進んでいる。2月16日(土)には、在宅ケアを支える診療所・市民ネットワークの主催で認知症についてのシンポジウムを控えている。</p> <p>川島：在宅医療連携拠点事業では復興枠で採択されている。また、宮城県地域医療再生計画の採択を受けた。厚生労働省の医療計画の見直しを見てみると、「在宅医療」の文言の出現回数が、飛躍的に増加している。死亡の場所別にみた都道府県別死亡数では、グループホームでの死亡の場合、その他に区分されている。グループホームを老人ホームに区分できないか、と厚生労働省の方々に言ってみたが、法律を変えないと出来ないということ。24時間体制が大変だという声を聞くが、厚生労働省・保健局は、24時間体制を緩めようとはしない。在総診+24時間連携体制加算をつけても看取り率は低下していたが、在宅療養支援診療所ができて在宅見取りが増加しているという事実からである。厚生労働省の各局から研究事業の公募がある。在宅医療に関する内容で手を挙げても良いのではないかと考えている。本日配布のデータについては、事務局経由で世話人会MLに配信する。</p> <p>平原：北区でも柏プロジェクトを展開できないか、と準備している。今年は講演会を開催し、来年の実行を目指している。北区では安心センターサポート医というシステムを構築し、安心センターに寄せられた痴呆症等に関する問題とうのサポートをしている。行政・医師会と協働し、問題意識も共通している。在宅死率 16%ほどであるが、2/3が観察医無医であった。数値の内容を精査の必要がある。北区は大きな病院がない為、半数くらいが区外で亡くなっているという問題も共有している。板橋・北区については、医師会も熱心に在宅に取り組んでいる。城北4区で勉強会を行っていこうと連携を深めている。</p> <p>伊藤：愛知県では4ヶ月に1度は顔を合わせようと、計画している。強化型・地域包括ケアなどについての検討会、飲み会を行っている。45名の会員のうち、参加は20名程度。会員数を増やしていきたい。</p> <p>市原：秋田で往診クリニックを開業して5年目。秋田県では、在宅医療が注目され始めたのは数年前。今年、県レベルの連絡会を立ち上げ先月フォーラムを開催し、大変な刺激となった様子。</p>

- 吉田：徳島県で在宅医療連携拠点事業に選ばれたのは、4箇所。そのうち、3箇所が徳島市内。徳島県の在宅死亡率は9.9%。施設見取りが多く施設の数も多い。人口比率での在宅療養支援診療所や訪問看護ステーション数も多く、資源は恵まれている。医師会が在宅医療を進めたくない。在宅医療連携拠点事業で連携を図りたいと申し入れたが、断られた。
- 大澤：群馬県では在宅療養支援診療所は190件あるが、どの程度稼働しているかは不明。群馬県在宅療養支援診療所連絡会の会員は102名。勇美記念財団からの助成で摂食嚥下の評価を在宅チームで行う事業を展開している。講演会も開催し盛り上がっている。伊勢崎市は20数万人の人口地域。医師会は、在宅に積極的ではない。伊勢崎在支診ネットワークでは、強化型を行う診療所の参加が多く、ケアマネや訪問看護ステーション等と連携を図れるような事業を行っている。また、かかりつけ医認知症対応力向上研修のプログラムも行っている。地域リハビリテーション広域支援センター事業は、医師会で受託を受けて、毎年介護予防のイベントなどを展開している。様々な活動がまとまっていけば、在宅医療が推進されていくと思っている。
- 小笠原：岐阜県は、田舎で山も多くやりにくい現状がある。岐阜市は地理的には恵まれている。近くに2件の診療所が在宅医療を初め、地域全体で広がり始めている。成功体験を増やしていくことが重要と考え、病院で症例検討会をしている。在宅医療連携拠点事業の採択を受けているが、医師会全体では協力的なところとあまり協力的ではないところがある。来年度は、在宅医療連携拠点事業を県の政策に盛り込まなくては、と医政策課と話し合っている。強化型の数を増やすことを目指している。市に予算枠を作っておかないと拠点事業も受けられない。
- 長尾：桜井先生の代理で出席させていただく。関西地区では勉強会も盛んに行われている。兵庫県在宅医会を作り、医師会内に置きたいが認められていない。神戸大学で在宅医と大学医局医との交流会を行った。先週、日慢協で在宅医療認定医講座を行った。病院との連携が重要だというベースの元で行っていくことが重要と考える。在宅患者紹介ビジネスについて、大学病院の中に堂々と業者が入り大学病院医師が多く登録している。業者が独自にセミナーを開催し、新しい先生を取り込んでいる。毎月、売上げの2割を業者にバックするシステム。そういった業者は、在宅医療の推進を掲げている為、大学の地域連携室は対応に苦慮している。開業医の労働問題について、24時間365日がネックとなり、体調を崩す医師が多くいる現状がある。2月に京都府で行う近畿ブロック在宅医療推進フォーラムのテーマは、「そうはおeasyけど、やっつけられまへんわ、在宅医療。」連携等の巧妙を探る。
- 新田：日本慢性期医療協会が2週間の在宅医療認定講座を開設。合計6日間、講習の内容はとても良いもので、参加者は診療所の医師が多い。本来は、当会の事業だと感じつつ講習を行ってきた。
- 木村：岩手県では、医師会と在宅医療についての会議を行い、在宅医療の現場にも6名見学に来た。盛岡市では、在宅医療の推進課は存在しない。医療計画に、【連携】という言葉が多く出てくるが、曖昧である。連携して家で看取るということを実行していく。
- 永井：10月末、全国統一在宅医療テストを実施。925名の参加があった。在宅制度についての知識が必要である。愛媛で、3月30日・31日在宅医学会を開催。プログラムも多様化し多職種 2,000名の参加を期待している。2日目の【機能強化型在支診を考える】は、当会の主催で行われる。多職種の交流会も企画している。各ブロックの連携拠点事業の優秀者による発表会も企画。4月から僻地医療 1200人の地区の診療所を運営し、去年は3000万の赤字であったが、半年で黒字に転じた。こうした僻地医療の再生モデルとして全国に発信していきたい。
- 中野：開業して13年、総決算の年であった。一つ目は、在宅医療の本を書き上げたこと。村田理論のケアとキュアの概念を使ってまとめた。2年前に書くことを決め、在宅哲学を上手くまとめられたものと満足している。二つ目は、在宅医療連携拠点事業が採択され

たこと。13年間求めてきたシステムの構築を図れる。カナミックを使用、業務用ソフトと連携用ソフトが一体化しており、優れている。使用上の負担も少ない。セキュリティを重視した電子連絡帳の実証実験を行う予定。説明会には、30施設がすでに参加している。三つめは、ケアタウンナカノ計画の進展。1300坪の土地を購入し、今後、建物。コンセプトは、囲いでなくて拠点としての機能。ITコミュニケーション局としては、HPの活用を考えている。

和田：高知から千葉県松戸市のいらはら診療所に拠点を移している。高知市周辺では、在宅看取りが全国平均より高い。それ以外の地域では、在宅医療が推進されない。都市部以外は、特例が必要か検討されている。高知県は、高齢化率は上がるが、高齢者数は増えない。人材養成についても、急速な対応策をとらなくてもよいのでは、と議論がされている。千葉県では、柏プロジェクトのオブザーバーとして参加していく。孤立死について関心があり調べてみると、48時間以降の死亡の推定数は26,800名。48時間以内の方が数が多い、よって、少なく見ても年間 5~6万人は孤立死している。

教育研修局から、①国立長寿医療研究センターの在宅医療現場の栄養調査について、調査が終わり、今後、データの分析を行う。②在宅医療研修用DVDの作成について、現在撮影中。執筆や撮影等、ご協力をお願いしたい。③在宅医療推進フォーラム地方版の運営について、明日のフォーラムでの発表。④多職種連携に関するDVDの世話人への発送について、近日中に行う予定。⑤在宅医療研修用DVD「はじめよう！在宅医療」の作成について、次年度も継続。⑥国立長寿医療研究センターの研究での症例の収集について、皆様に症例提供の協力を得たい。

先ほど話題に挙がった在宅医療の講習会について、当会での開催について検討していきたい。

新田先生を中心に厚労省との交渉を続けている。

永井：⑤について、コンテンツに制度も入れてほしい。制度の理解が不可欠である。

太田：⑤について、総論を3巻作成。その後の各論の中で、そういった細かい内容を盛り込む予定。1巻が30~40分。

栃木県では、知事のマニフェストに在宅医療推進が書かれている。在宅療養支援診療所連絡会栃木がやっとの思いで医師会の中に設立できた。会長に県の医師会会長を置いて、知事と医師会会長がやる気になってきている。

石垣：東海北陸ブロックフォーラムでは、医師会と行政をいかに在宅医療に組み入れていくかをテーマに開催した。年末に静岡放送で2時間の在宅医療の特番で在宅看取りについての座談会を放送予定。市長に対しては、在宅医療は地域における安全保障ととらえ、必要性を認識していただけるよう要請した。

新田：厚労省との交渉の進捗状況について、先日、機能を強化した在宅療養支援診療所に関する制度に関する要望書をもとに説明してきた。質の高い在宅医療を基本にして、単独型・連携型のあり方についてお伝えした。

太田：在宅医療の標榜については、厚生労働省でも「在宅医療推進」という旗を掲げているので、標榜についても望んでいるような印象。目標に向かってゆっくりと動いていきたい。

(3) 議事

1) 放送大学 田城孝雄教授からのアンケート調査への協力について (資料参照)

太田：申請書を拝見し、問題はないように思うがご意見は。

石垣：非常勤医の教育の場がないのが現状。正しい在宅医療を伝える必要性を感じている。在宅医療を正しく理解した勤務医を養成する、病診連携の強化に繋げる事を目的とした研究。このような取り組みは、重要と考える。

⇒承認

2) 機関誌作成について

	<p>太田：団体として活動を行ってきたので、その記録を持つ必要があると感じている。年会費5,000円の収入しかない為、単独で機関誌を出す力はない。芳林社ベターケアから、当会の記事を掲載していきたいという申し出があり、明日のフォーラムに取材に来る。機関誌の代わりになるものではないが、情報を載せてもらうことで広く配付でき、宣伝の効果もあるのではないかと。機関誌として位置づけるには、会員の賛同も必要。明日の取材内容掲載の雑誌を配布するので、判断して欲しい。機関誌としてふさわしいか否かは、後で議論することとする。</p> <p>3) 本会の運営方針について</p> <p>太田：会員拡大について、地方でのPRをお願いしたい。</p> <p>永井：日本在宅医学会でチラシを配布してはどうか。</p> <p>太田：事務局でチラシを作成。MLの魅力・ML話題を盛り込んで。HP管理会社の変更等を検討する。内容の引継ぎ等の交渉も必要。まずは、事務局で交渉を始めてみる。必要に応じて、中野先生をお願いしたい。</p> <p>和田：在宅医療の標榜については、協議中。</p> <p>4) 次回開催日程</p> <p>太田：日本在宅医学会の初日 愛媛県松山市 平成25年3月30日 17:30~19:30⇒承認</p> <p>5) 国立長寿医療研究センターから</p> <p>深田：公債発行特例法は通らず、今までは県の拠点事業の研修会等・拠点事業の実施資金が交付されていなかったが、ようやく通った。数ヶ月の間に県の研修会や拠点事業が動き出す予定。各地の研修会等で講師陣が必要になってくる。県からの問い合わせに対して、皆様を紹介させていただく事をご了承いただきたい。</p> <p>(4) 閉会</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 社員名簿 ○入会状況 ○IT・コミュニケーション局より ○教育・研修局より ○調査・研究局より 医療計画の見直し等 ○田城孝雄先生 研究概要 ○第15回 日本在宅医学会大会in愛媛 チラシ ○NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第19回全国の集いin新潟2013プレ大会 チラシ
事務局	岩本 佳代子